

2003 年を迎えて

2003 年 1 月 1 日 荒井 徹

新年おめでとうございます。

今年は、我社にとってその前身である日航塗装株式会社の誕生から数えて **20 周年**の節目の年であることは皆さんよくご存知だと思いますが、一方、ライト兄弟が初飛行に成功してから丁度 **100 年目**に当たると共に、**ナショナルフラッグキャリア**としての日本航空の誕生および、現在の **JAS** の前身である東亜国内航空の誕生から数えて **50 年**となる、正に航空業界にとって記念すべき年に当たります。一昨年の **9.11 テロ**以来世界的に低迷が続けているこの航空業界も、**100 年**の輝かしい歴史を振り返ってみれば、ほんの一瞬のつまずきであることは言うまでもありません。皆さんがこの航空業界に自分の夢を託されたのは極めて正しい選択であったと思います。

しかし、発展する産業というものは常に厳しい競争にさらされます。**IT 産業**ばかり、**バイオ産業**ばかり。競争することは努力をしない人、変化を求めない人にはつらいことかもしれないませんが、年齢を問わず**夢を追い続ける人**にとっては可能性に満ちた素晴らしい世界であることもまた確かなことと思います。

今 **JALTAM** には、新しい **JAL グループ**から大きな期待が寄せられています。それは日本航空整備が半世紀をかけて築いてきた「**安全運航**」と「**高い生産意欲**」の文化を引き継ぐことに他なりません。そしてそれは皆さん一人一人が**ライセンス**の取得に挑戦すること、各トレードにあっては、その**スキル**をより深く、広くすべく挑戦することと同義語です。経営としては皆さんのこうした**挑戦**に対し精一杯支援していく積りです。

昨年は業界を代表するような大きな企業が不祥事を起こし、社会的に制裁を受けた年でもありました。これは会社を構成する一人一人が社員である前に一人の社会人であることを忘れていた為ではないでしょうか。法令に違反することはもとより、技術規定類や社内規則の類に違反することも、またそうした事実を隠すことも、飛行機に自身の身を託すお客様にとっては「反社会的な行為」ととられても仕方がありません。原子力発電所の整備規定違反事件や、食品表示偽装事件などを思い起こし、日々の仕事の中で**社会人としての倫理観**を失うことの無い様努力していただきたいと思います。

いつも申し上げていることですが、私たちの職場は危険に満ちあふれています。慣れてしまうと危険を感じないところにその恐ろしさが潜んでいます。経営としても**作業安全**のために最大限の努力を惜しまない事は勿論ですが、皆さん一人一人が自身のためばかりでなく、家族の皆さんの為にも安全にかかわる規則をしっかり守るなどできる限りの努力をしていただきたいと思います。

今年も安全で挑戦する気概に満ちた活気ある **JALTAM** を目指しがんばりましょう。

以上